



旬

我が家のミニ菜園から純白のカブが採れた。小粒だがぶりぷりしている。千枚漬けに挑戦してみた。漬物壺の底に漆黒に白い塩のふいた福村のコンブを敷いた。



松原 良明さん

て。孫の手が止まりません。母なる那賀川の養分をたっぷりいただいたいて、まもなく福村のワカメと福村の桜ダコが旬を迎えます。スダチのしぼりで絶品です。なぜか熱燗が合うんです。

地域のみならず津波防災を検討した翌日、淡島海岸に散歩に出かけた。阿波八景十二勝の紺碧の海と白砂に安寧を祈った。思わず野口雨情の富岡小唄が脳裏をよぎった。

「海の眺めぢや淡島あたり夏は涼しい浜遊び」

にして塩を少量パラパラ。またコンブを敷いて五重のサンドイッチにして、ラッキョウの素を少々。重しを載せて一昼夜。出来上がりしました。ねばねば感はコンブの威力。なぜかビールに合うんです。

漬物の横に除のサツマイモ。これがまた旨いんです。白い粉をふいたホッコリ感。ふかして、焼いて、油で揚げ

次は、那賀川町の杉本由美子さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

入選

エピソードになりたる母の餅好きを偲びて

金本ひろみ

入選

時おりは拗ねて見なくなる老いの日々変らぬ夜と朝が又くる

真田美代志

入選

濃密に来る闇ありて颱風は尖閣沖を北に逸れゆく

小畑 定弘

入選

告げ来しを聞き止めもせで帰しし児日記に記しぬ夕がほの花

松田 英美

入選

風呂あがり夜空にさゆる満月の光にぬれてしばしたたずむ

大石 建子

入選

命終の日も連れゆかむ幻聴の内耳に飼へる百匹の蝉

河野 茂美

入選

蝉の声やや遠のけば白露とふ兄の墓標もやが包めり

西條 悦子

俳句

阿南市俳句連合会選

しぐるるや村駈け巡る選挙カー

五光 春海

六地藏新前掛けの師走かな

阿部 和子

朱の門に奉納草鞋冬日濃く

荻原 朝子

蓑虫のみの重さうに雨に垂れ

湯浅 芙美

手造り茶房庭園冬紅葉

横手 義人

干し柿を山より見つめ猿の群

鶴羽 竹子

木の実独楽細き指持て捻りけり

車田マサ子

妹久し老いて冷たき手を握る

神野 島女

毛糸編む流行少し取り入れて

榎原さつき

粕汁にほっこり酔いし夕餉かな

森 君江

川柳

阿南川柳会

高木旬笑選

政治家の鈍感力は凄なもの

山形 恭子

朝起きてしてた喧嘩を思い出す

橋本 征介

遍路旅こころ触れ合うお接待

岡本 福笑

子守歌うたう母さん先眠り

西田 修身

晴れた日はつい好い人になる私

佐藤つたえ